

102 明治時代 条約改正

イテイオアムコ!

1871 岩倉遣欧使節団

→法律が整っていないと相手にされず。

1889~91 青木周蔵 3代外務大臣

1891 大津事件 で外務大臣辞任

ウラジオストクでのシベリア鉄道起工式の後、日本に興味あるロシア皇太子ニコライ（日露戦争の時のロシア皇帝）が、琵琶湖観光中に警備の巡査津田三蔵に斬りつけられ大けがした事件。大審院長児島惟謙は死刑にせず司法権の独立を守りました



大審院長・児島惟謙

シベリア鉄道起工でロシア南下を恐れる

イギリスが日本に好意的に

1873~79 寺島宗則 外務卿

確かに憲法も刑法も整っていないので裁判権の回復は難しいと考え、関税自主権ならいけるだろうと、まず貿易額の少ないアメリカと交渉しました。アメリカは「いいですよ」とあっさりOK、でもイギリスが反対。最恵国待遇があるから対アメリカの関税だけ引き上げるわけにいかないから、アメリカは「ごめんね」と。アメリカはイギリスにNOと言わせる形にできました

1892~95 陸奥宗光 外務大臣

1894 日英通商航海条約 調印

i 司法権回復なる(領事裁判権 撤廃)

ii 税権の一部回復 関税の税率一部引き上げ

iii 安政の五ヶ国条約で外国人は 居留地 に居住場所が限られていたんです。それが日本に自由に居住し商工業の営業を認める 内地雑居 を認める。

陸奥宗光の回想録が『蹇蹇録』



陸奥宗光

1908~1911 小村寿太郎 外務大臣

1911 日米修好通商条約 調印

→他の列国とも改正に成功

関税自主権の回復 成功

背景に、日露戦争の勝利による日本の国際的地位の上昇があります。



小村寿太郎

6名でも混んどる！ 鹿鳴館(1883)完成 コンドル

1888 大隈重信 2代外務大臣(黒田内閣)

黒田「薩長は攘夷でイギリス人を斬ってきた。ここは肥前だ」
大隈「明治十四年の政変を恨んでいる場合ではない。」

・極秘 個別交渉 方式

徹底して極秘にして列国に共同戦線を張らせないようにしました。イギリスはフランスのことが分からず、日本有利に順調！

→ 外国人判事 を大審院に限り認める草案

→ロンドンタイムズに小村が漏らす→世論激怒

何この政府、イギリスにペコペコして！何のために幕府を倒したのさ。権力握りたかっただけでしょ。と反対世論が沸騰。

→大隈外相が 玄洋社 の爆弾で負傷、辞任。

1889.2.11 大日本帝国憲法発布

行政優位で、三権対等ではないけど三権分立だよ



寺島宗則



井上馨



大隈重信